

1 パソコン・インターネットの利用状況

現在、パソコンやインターネットは、私たちの日常生活だけではなく、学修・研究の場でも不可欠なものになっています。

変貌するメディアの役割

インターネットと紙媒体、双方の特徴を理解しましょう

- 現代の大学生にとっては、さまざまな最新の情報を入手する手段として、テレビ・ラジオ等の放送メディア以上にパソコンやスマートフォン・携帯電話などを使って得られるインターネット上の情報が大きな情報源となっています。
- 特にかつて主流であった新聞・雑誌に代表される紙媒体のメディアの比重が相対的に下がり、多くの大学生が新聞を購読せずにもっぱらネットの情報に依存している状況になっています。
- 新聞・雑誌のような従来型のメディアは、伝統に培われた豊富で深く掘り下げられた内容を持った情報源ですので、それを多くの学生が利用していない状況は残念なことですが、一方で現在はメディアの中心がネット情報に移行しつつあるといえるでしょう。
- また、インターネットにはこれまでにない新たな情報源や音声・動画などの情報も含めて膨大にありますが、一方でこれまでの新聞・雑誌の情報も詳しく提供されています。そうした従来型の情報も工夫をすれば手に入れることもできます。
- 膨大な情報から、本当に私たちの学修やキャリア形成に役立つ質の高い情報を取り出す手段を理解していることが、これからさらに必要なこととなります。

家庭では

さまざまな用途で使われる家庭におけるパソコン

- 大学でのパソコンの利用を考える前に、現在、家庭でパソコンはどのように使われているかを考えてみましょう。
- 現在、家庭でのパソコンの利用は、電子メールのやりとりやWebでさまざまな情報を調べたりLINEやFacebook等に代表されるSNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）でメッセージを読んだり書き込みをする、あるいはチケットの予約やオンラインショッピング、音楽やビデオの視聴や購入、オークションへの参加などが用途の多くを占めているのが実情でしょう。
- なかには自分でブログやTwitterを始めて自分の日常体験や考えたことなどを公開している人もいるかもしれませんが、インターネット以外の用途としては、ワープロ・ソフトを使った文書作成、デジタルカメラやスマートフォンで撮った画像の管理や印刷、デジタルビデオで撮影したムービーの編集や保存、はがき印刷ソフトを使って年賀状や暑中見舞いの印刷、コンピュータ・ゲーム、お絵描きソフトによるコンピュータ・グラフィック作成といったところでしょう。

Column

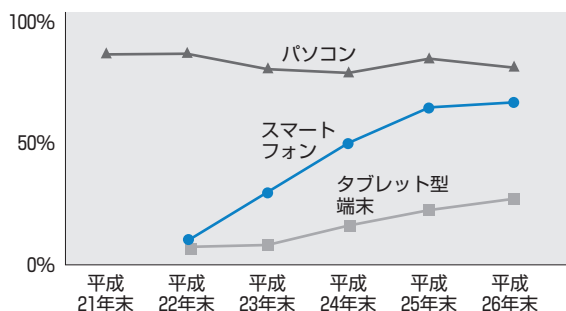
総務省の調査にみる普及率

世帯当たりのパソコンの普及率は78.0%と過去最高だった平成21年の87.2%に比べると低下の傾向を示しています。一方でスマートフォン64.2%、タブレット型端末26.3%と急速に普及が拡大しており、インターネット端末としての利用がパソコンからこれらの新世代の情報機器にシフトしていることが見て取れます。

インターネットの利用率に関しては、13歳～49歳までは97%前後となっており、インターネットは生活に不可欠なメディアとして完全に定着したといえるでしょう。

■主な情報通信機器の世帯保有状況

総務省 平成26年度「通信利用動向調査」より



本学の状況

コンピュータの役割は非常に大きくなっています

- 現在では高等学校で普通教科「情報」が必修となり、みなさんはコンピュータやインターネットに関する基本的な知識やスキルは高等学校でひと通り学んできています。
- 本学でも、理系・文系にかかわらずコンピュータやインターネットを利用する知識と技術は、学生にとって不可欠なものとなっています。学部、専攻分野によって利用の頻度や傾向は異なりますが、いずれの学部であってもレポート作成、演習、実習、研究などの多くの場面でコンピュータは利用されています。
- 講義では、まだ全面的にコンピュータを利用する科目ばかりではありませんが、その利用は年々増加していますし、学修・研究を進めるための道具としてのパソコンやインターネットの役割は非常に大きなものとなっています。
- さらに履修登録や休講通知、さまざまな諸連絡がインターネットの Web や掲示板機能を活用して行われています。本学でも Blackboard@Tamagawa という Web による講義支援システムや UNITAMA という大学情報ポータルサイトが従来の掲示板に取って代わって利用されています。すでに履修登録はすべて UNITAMA を使って行われますし、学生が自分の成績を確認するのもこれを使って行われます。掲示板としてはまずこれを第一に使うことが定着しています。Blackboard@Tamagawa では、さまざまな講義の支援だけでなく、それを利用した遠隔教育による単位認定もすでに一部で行われています。

大学の現場では

文書作成やデータ収集などに利用されています

- パソコンの使い方としてはインターネット情報を利用するための機器としての使い方の他に、伝統的なワープロや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトで文書やファイルを作成する作業や、学部によってはプログラミングやさまざまなデータ処理、機器の制御などに利用する使い方もあります。
- 大学では一般的な家庭での利用に比べて、授業でレポートの作成をする課題が多く、ワープロ・ソフトの利用やデータ処理やグラフ作成のための Excel のような表計算ソフトでの作業の割合が多くなり、そうしたソフトウェアを十分に使いこなすことが要求されます。また、レポート作成でもネット上の資料やデータを収集・参照しながら行う場合も多く、常時インターネットに接続されている環境が不可欠になりつつあります。
- 次ページから、現在大学でどのようにパソコンやインターネットが使われているかをまとめていきます。
- 便宜上、パソコン単独で利用する場合と、インターネットとパソコンを接続して利用する場合とに分けていますが、実際には相互に補完し合って利用する場合がほとんどです。

